

【令和5年度 授業改善推進プラン】

板橋区立高島第三中学校

【国語】

■生徒の状況	<ul style="list-style-type: none">・各学年ともに、授業に集中し落ち着いて授業に取り組んでいる。(7年95%、8年96%、9年99%)・漢字語句、文法など基礎基本の定着に課題をもつ生徒が多いが、授業アンケートの結果では定着に必要な家庭学習の時間が不足している生徒が多い。(7年61.6%、8年42%、9年71%)・リーディングスキル(読み解く力)については、「イメージ同定」「具体例同定(辞書)」「具体例同定(理数)」において平均が上がっている。また、「同義文判定」「推論」においては前年度と同程度の平均で、課題としている生徒が多い。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none">・漢字や語句の知識を身につけさせる。・語彙力を豊富にするため、言語活動を取り入れる。・リーディングスキル(読み解く力)を身につける。(特に照応解決と同義文判定、推論について重点的に取り組む)・自分の考えの根拠を明らかにして、分かりやすく伝える力をつける。・家庭学習の習慣化を図り、基礎学力を定着させる。・全国学力調査の平均正答率〔()の値は都平均〕は、「知識・技能 64.3%(70.1)」で、特に「漢字の書き取り」や「情報と情報との関係についての理解」が平均を下回っている。「思考・判断・表現 70.8%(72.9)」のうち「書くこと 71.3%(66.8)」で平均を上回っているのに対し、「話すこと・聞くこと 83.5%(84.4)」、「読むこと 61.0%(67.2)」となり、平均を下回っている。・全国学力調査の問題で課題が見られたものは、漢字の書き取り、情報と情報との関係についての理解、文章の要旨の読み取りという内容であった。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none">・「高三中授業スタンダード」に基づき、授業の目標を明確にする。・目標の範囲を決めて漢字を習得するための反復練習やテストを実施する。・辞書で語句を調べ、活用する習慣を身につけさせる。・自分一人で考えをもつ場面、他の人の考えを聞いたり、お互いの文章を読みあったり、意見を交換したりして考えを深める場面を設け、相手に伝えたいことを正確に伝える力を身につけ、言語能力を高める。・文章を読み解くポイント、キーワードを意識して読ませる。・朝読書や読書カード(読書通帳)などを活用して、読書活動を推進することにより、語彙力を楽しみながら身につけさせる。

【社会】

■生徒の状況	<ul style="list-style-type: none">・7年：95%の生徒が授業に集中しようと努め、86%の生徒が授業を理解していると答えている。・8年：92.5%の生徒が授業に集中しようと努め、85.5%の生徒が授業を理解していると答えている。・9年：99%の生徒が授業に集中しようと努め、93%の生徒が授業を理解していると答えている。
---------------	--

<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をしっかりと把握させ、授業の理解をさらに深めさせるために基礎的・基本的事項の整理をノートやプリント教材に整理させる。 ・興味・関心をもつことができる導入を展開する。 ・ICT機器を用いて、資料を多用して視覚に訴える授業を展開する。 ・「考えをもつ」「考えを深める」場面を増やし、言語活動を多くする。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の基礎的・基本的な内容を授業開始時に確認する時間をとる。 ・本時の授業の目標を明示し、基礎的・基本的な授業の内容をしっかりと把握させるために、教科書の読み取りをさせる。 ・より興味関心がもてる授業を展開するために、デジタル教科書やICT機器等、多くの視覚的な資料を用いる。 ・「振り返り」の場面で「わかったこと・できたこと」を生徒自身が記述して可視化する。

【数学】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・7年は97%、8年は95%、9年は99%が授業に集中できていると答えている。 ・7年は88%、8年は89%、9年は86%が授業を理解していると答えている ・ほとんどの生徒が集中して授業に取り組んでいるが、予習・復習が定着していない生徒は、各学年とも3割程度いる。 ・7年は79%、8年は85%、9年は78%が、興味関心がわくと答えている。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査の平均正答率〔()の値は都平均〕は、「数と式:61.1%(66.0)」、「図形:40.6%(39.2)」、「関数:51.2%(54.3)」、「データの活用:39.5%(50.4)」となっており、図形に関しては都の平均を上回っているが、データの活用に関しては大幅に下回っていた。内容で見ると、「自然数や累積度数の用語の正しい理解ができていないこと」「結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし説明すること」「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」が低い結果であった。今までの指導は継続しつつ、「データの活用」の分野は、様々な情報を比較して考え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する場面を増やすなど工夫していく必要がある。 ・授業には集中できているが、それをサポートする家庭学習が不足しているため、タブレットにあるドリル課題に取り組ませるなど、学習の習慣化を図る。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に合わせ、タブレットにあるドリル課題に取り組ませるなど、身近な教材を活用し、学習の習慣化を図る工夫をしていく。 ・「考えを深める」場面では、苦手な生徒でも興味をもち考えられるよう発問等を工夫する。また、数学的な表現を用いて説明できるよう指導していく。 ・「まとめ」の場面では、わかったこと、できたことを書かせ、生徒自身で理解の度合いを確認させる時間を確保していく。 ・家庭での予習、復習のできることをアドバイスする。

【理科】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7年は97%（89%）、8年は97%（96%）、9年は99%（99%）が授業に集中しようと努めていると回答。 ・ 7年は93%、8年は89%、9年は96%が授業に主体的に取り組んでいると回答。 ・ 7年は43%（58%）、8年は68%（53%）、9年は62%（58%）が授業の予習や復習を行っているという回答。（*カッコ内は昨年度の数字） ・ 授業へ集中は全学年で97%以上であり、授業への主体的な取り組みの数値も高く、前向きで落ち着いて授業に取り組んでいる。家庭学習に関しては8、9年では前年度よりも数値が上がっているが、まだ3、4割の生徒は取り組めていない。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7年は85%（73%）、8年は92%（75%）、9年は76%（83%）が興味・関心がわき、さらに学びたくなるような授業であると回答。 ・ 7年は36%、8年は34%、9年は45%が家庭や授業でタブレット端末を学習に活用していると回答 ・ 7年は75%（85%）、8年は87%（83%）、9年は80%（72%）が授業で習った内容を理解できていると回答（*カッコ内は昨年度の数字）。 ・ 学年が進むにつれて、学習内容が難しくなることを考慮に入れると、学習の内容の理解に関しては8年は多少前進、9年はほぼ変わらないと判断できる。授業への興味・関心の数値も昨年度よりは良くなっている。 ・ タブレット端末の活用はまだまだで、活用しているがどの学年も5割を超えておらず、教員の活用能力の向上も含め、さらなる努力が必要。 ・ 2割前後の生徒が興味・関心を持たず、授業の内容を十分に理解できていない。タブレット端末の活用の度合いと興味・関心や内容理解と単純には連動していないが、ICT機器の有効な活用も含め、生徒の興味・関心をさらに高め、内容の理解が進む授業の展開をしていく必要がある。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の興味・関心をさらに高め、内容の理解が進む授業の展開をしていくため、以下の3点に特に力を入れる ① 「高三中授業スタンダード」に基づき、毎回の授業の目標や流れをしっかりと明示するとともに、中心にある学習内容を個々が認識して取り組むとともに、授業の最後に改めて学習内容をまとめる。 ② 視覚的な情報や主体的・協働的な学習を進めるためにICT機器を活用する。 ③ 実験や観察を多く取り入れ、実体験で得られた生きた知識をもとに、原理や法則を主体的に思考していく授業展開をさらに工夫していく。 ・ 家庭での予習、復習のできることを具体的にアドバイスするとともに、その効果を実感できるような評価方法を工夫する。

【音楽】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートなど、学習に意欲的に取り組む生徒が多く、授業アンケートの授業準備・授業への集中については各学年とも95%の生徒ができていると答えている。 ・歌詞の内容を理解する学習を展開している。 ・特に第8,9学年は歌唱における基礎基本が身につけてきている。また、意欲や希望をもって取り組もうとしている姿勢がある。 ・第7学年は、意欲の高まりが見られるが、ワークや記述には課題がある生徒も見られる。 ・第9学年は、落ち着いて授業を受け、指示に対して積極的にメモをとるなど、学習への意欲の高まりが見られる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音楽室内の必要な機器が揃っていないので、機器の充実を図る。 ・探求型の授業においてポイントを絞った指導計画で展開する。 ・歌唱だけではなく実技への取り組み（創作）を実践する。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱については、密を避け、並び方の工夫をして、短期間でも取り組めるように、選曲を考える。令和5年度から、従来通りの混声三部合唱を取り組む。 ・基礎的・基本的な知識理解を定着させ、正しい技術を身に付けられるように指導の工夫をし、ICT機器を用いて、資料を多用して視覚に訴える授業を展開する。 ・授業の中で「目標」と「振り返り」を明確にし、言語活動を取り入れて学習の定着を図る。

【美術】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・7学年は、95.8%、8学年は、97.6%、9学年は、99.1%が授業に集中しようと努め、7学年は94.1%、8学年は87.7%、9学年は99.1%が授業に主体的に取り組んでいると答えている。 ・このことから意欲的に授業に参加しようとしていることがわかる。作品制作の際は、粘り強く自分の納得のいく表現を追い求める姿があった。 ・「授業で習った内容は理解できている」と答えた生徒は、7学年は88.3%、8,9学年は90%以上だが、筆記試験での平均点は、7学年が47.5点、8学年が47.3点、9学年が56.3点と、それほど高くないので、学んだことを読み解いたり言語化したりすることが苦手な様子が見られる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のめあてや見通し、最後のまとめなどの提示が生徒にしっかりと伝わっていないこと。 ・タブレット端末の活用に関して、画像など作品の資料を収集するのに使っているが、深い学びに対し効果的であるとは言えない。 ・生徒が自分でわかったこと・できたことなどをきちんと説明できるような、言語活動を深められていないこと。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のめあて、振り返りを明示して、学習の定着を図る。 ・視覚的でより興味関心をもてる学習を進めるために、ICT機器を活用する。 ・生徒自身の作品や、友人の作品を鑑賞する時間を通して、「わかったこと・できたこと」を生徒自身が記述して可視化し、発表させることで生徒の振り返りを共有する時間を設ける。

【保健体育】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習をしている ⇒ 7年:40% 8年:33% 9年:26% ・授業に集中している ⇒ 7年:89% 8年:85% 9年:98% ・授業の終わりにまとめを行う⇒ 7年:43% 8年:51% 9年:82% ・学習した内容を理解している⇒ 7年:87% 8年:83% 9年:95% ・自ら活動する場面がある ⇒ 7年:83% 8年:90% 9年:96% ・発表する場面がある ⇒ 7年:60% 8年:78% 9年:82%
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードの取組はほぼ全員が提出できているが、予習復習の実施率が低く、個人の学習活動に十分に反映できていない。 ・授業の終わりでまとめの場面に対する認識が低い、これも学習カード等で代用し、実技時間の確保を試みている。カードの取組は良好であるので、その点を伝え、生徒の意識を高めていく必要がある。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で本時の目標を明示し、学習内容に見通しをもたせる。 ・自己達成感を与えるべく、随時生徒評価を口頭でも伝えていく。また、発表する場面の豊富なくけを行う。 ・授業の内容で、予習が必要な場面や振り返りの場面を増やすことで学ぶ意欲を高められる授業を展開していく。

【技術・家庭】

<p>■生徒の状況</p>	<p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中しようと務めている⇒7年:93%、8年:91%、9年:100%と、各学年ともに落ち着いて取り組んでいる。 ・興味関心がわき、さらに学びたくなるような授業である⇒7年:68%、8年:75%、9年:76%と、1学期中は実習があまりできなかったため低い評価になっている。 ・授業に主体的に取り組んでいる。⇒7年:88%、8年:88%、9年:96%と、積極的に授業に参加している生徒が多い。 <p>【家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中しようとしている⇒7年:95.8%、8年:96.7%、9年:100% ・自分の考えを深めようとしている⇒7年:88.3%、8年:90.3%、9年:92.3% ・主体的に取り組んでいる⇒7年:90.9%、8年:98.4%、9年:98.3% ・習った内容を理解できている⇒7年:91.7%、8年:97.5%、9年:92.3% <p>→ほとんどの生徒が授業に集中し、主体的に取り組んでいるが、課題や提出物は未完成な生徒もあり、意識と行動に相違が見られる。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中しようとしているため、生徒が学習内容を理解して、実践できるような授業改善が必要である。 ・主体的に取り組んでいると考えている生徒が多いため、今後も生徒が主体的に取り組める授業を行う工夫して実施していく。 <p>【家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の終わりに「まとめ」を行っている →7年:60.8%、8年:77.4%、9年:53% ・家庭や授業でChromebookを学習に活用している →7年:52.5%、8年:65.6%、9年:62.6% ・「まとめ」の時間を十分に確保できていない。 ・Chromebookを十分に活用できていない。

<p>■授業革新推進に 向けての具体的な方策</p>	<p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味関心がわく授業を実施するために、タブレットパソコンなどのICT機器の活用など更に工夫をしていく。 ・授業の説明を工夫し、時間をかけて説明をして、授業の最後にしっかりまとめができるように、授業の組み立てを工夫していく。 <p>【家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インプットの時間を短縮し、アウトプットの時間を十分に確保した上でまとめを行う。ワークを活用し、生徒が主体的にまとめられるようにする。 ・Chromebookの活用方法を引き続き検討する。Chromebookを使うことが目的とならないよう留意する。生徒が使いたい場面で使えるようにするなど自主性を尊重する。
--------------------------------	---

【外国語】

<p>■生徒の状況</p>	<p>〈授業アンケート〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中しようとしている⇒7年:95.8%、8年:97.6%、9年:100% ・自分の考えを深めようとしている⇒7年:88.4%、8年:92.8%、9年:87.2% ・主体的に取り組んでいる⇒7年:89%、8年:93.6%、9年:97.6% ・習った内容を理解できている⇒7年:78.3%、8年:87.9%、9年:80.4% <p>〈全国学力・学習状況調査〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「必要な情報を正確に読み取る力」が全国平均に対して5%～7%低い。また、「正確に書く力」も全国平均に対して約4%～約10%低い。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中して取り組む姿は見られるが、学習した内容を理解し、定着させるための家庭学習の時間が少ないため、予習や復習のしかたを教え、実践させる。 ・「まとめ」の時間が十分に確保されていない。 ・全国学力調査の問題での課題は、「ある状況を描写する英文を読み、その内容に最も適切に表現しているグラフを選ぶ」と、「友達からのメールを読み、相手が提示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する」、「与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる」の内容であった。その結果を踏まえ、学習した内容をアウトプットすることに課題があることが分かる。
<p>■授業革新推進に 向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予習や復習のしかたをアドバイスをし、家庭学習の習慣を身につけさせ、基礎学力の向上を図る。 ・「高三中スタンダード」に基づき、毎時間のめあてをしっかりと提示し、授業の終わりにはまとめの時間を確保する。 ・今までの指導は継続しつつ、場面や状況に合った語彙の向上を図る。 ・まとまった語数の英文を読み、概要をつかむ練習や書かれていることに対して、正確に英文を書く時間を増やす。

【総合的な学習の時間】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年とも前向きに課題に取り組もうとしている。 ・図書室・タブレット端末などの学習環境やツールを活用した調べ学習や話し合い、発表を重視した取り組みを進める。これらの取り組みを繰り返すことで、自らの言葉で表現できる力を身に付けつつある。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部との関わりのある活動や集団で取り組むような活動をしているが、各学年の発達段階に応じ課題を設定して取り組ませることが課題である。 ・個々の生徒が身につけた学習方法をいかに探究的な学習に結びつけるかを実践する。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科・他領域等と同様、「高三中授業スタンダード」の手法を取り入れ、有意義な活動になるよう生徒に常に働きかける。 ・他教科・他領域等との関連を意識しつつ、映像教材やICTの活用、発表や学び合い活動の充実など、できることを工夫して取り組む。